

道路防災点検技術講習会

安定度調査表作成演習（事例研究）資料

その2：安定度調査表記入例

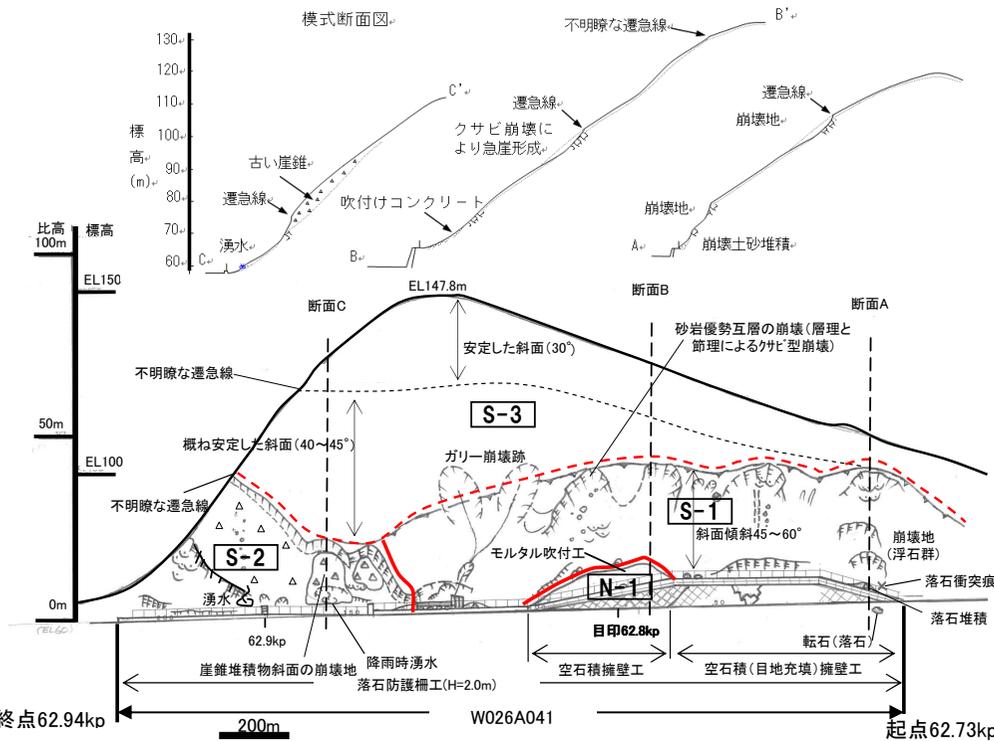
一般社団法人 全国地質調査業協会連合会

様式-2 箇所別記録表(落石・崩壊)

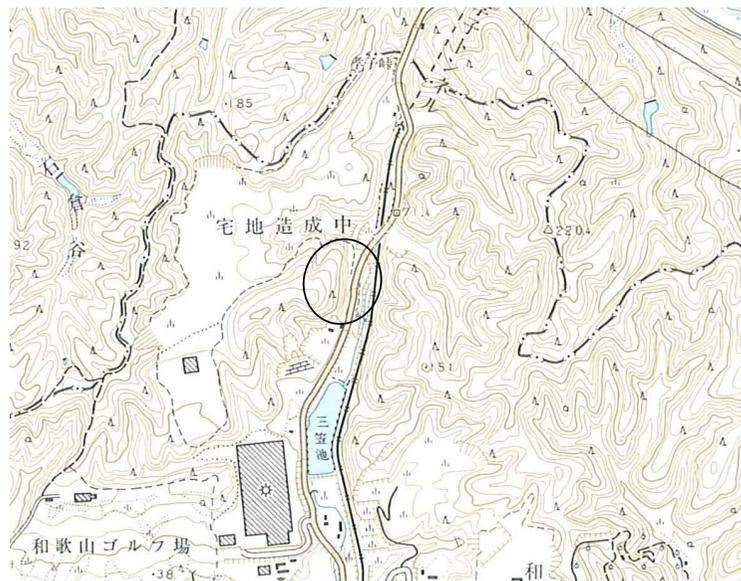
管理機関名	近畿地方整備局						
	和歌山河川国道事務所						
管理機関コード	8	6	6	5	8	4	2

施設管理番号	W026A041	点検対象項目	落石・崩壊	路線名	一般国道26号			距離標(自)	627	30(至)	629	40	上下線の別	上	延長	210.000	m			
事業区分	一般	道路種別	一般国道(指定区間)	現道・旧道路区分	現道	所在地	和歌山県 和歌山市 中宇佐谷	位置目印	62.8kpキロ標	北緯	34度16分35.8秒	東経	135度8分42.4秒	測地系	測地系	世界測地系				
事前通行規制区間指定	有(通行)	規制基準等	連続雨量	250	mm	時間雨量	mm	交通量	平日 12,400	台/12h	休日 10,300	台/12h	DID区間	非該当	バス路線	該当	迂回路	無	緊急輸送道路区分	指定有

スケッチ・現況写真(既設対策工、位置目印との位置関係が分かるもの)



位置図(縮尺1/25,000)



特記事項		被災履歴	無 () (H8年度以降)
点検実施	H 年 月 日 天候: ()	重複点検対象項目	対応施設管理番号: W026A030
調査方法	空中写真判読 地表踏査 目視点検	有	擁壁
所見(評価理由)	<p>標高80~110m付近に崩壊地が断続的に連なる不明瞭な遷急線が認められる。これより上方斜面(S-3)は表土に被覆された斜面で転石や浮石(露岩)は認められず安定している。一方、遷急線より下方斜面は、災害形態が露岩部からの崩壊と落石であるS-1と厚い崖堆積物の崩壊が主体であるS-2に区分される。</p> <p>S-1では遷急線付近を頭部とする崩壊地に露岩が認められ、泥岩優勢部ではスレーキングと風化により細片状の落石発生源を形成し、砂岩優勢部では層理面と節理面に規制されたブロック化した露岩が崩壊や落石発生源を形成している。また、斜面上の転石は斜面が比較的急なため少量であるが、崩壊地の露岩からは今後も抜け落ちや浮石としての落石の発生が懸念される。落石サイズは、節理や層理の間隔から最大でも50cm程度である。したがって、これらの落石に対しては既設の落石防護柵工で対応可能であると判断されるが、急斜面が道路に近接する箇所では、落石防護柵を越えて落石が路面に達する可能性が高いことから落石防護柵の嵩上げか覆い式落石防護柵などの追加対策が必要である。</p> <p>S-2では斜面に広く積まった厚い崖堆積物(最大層厚4m)が分布しており、一部に弧状の滑落崖を有する幅10mの崩壊が発生している。斜面末端部には降雨時に部分的に湧水が認められる。現状では崩壊の拡大や新たな崩壊の発生の兆候はないものの、斜面には不安定な土砂が堆積しており道路際の防護柵背面には部分的に崩土の流出が見られる。現施設では、小規模な崩壊や土砂流出に対しては十分対応できていると判断されるものの、既存崩壊地と同等の崩壊が発生した場合には不十分であると判断されるため防災カルテにより堆積土砂の推移を監視することが必要と判断される。</p>	<p>平成8年度点検結果 評点 (82点) 総合評価: 対策が必要と判断される / 対応: (未着手)</p> <p>平成18年度点検結果 評点 (のり面 0点 自然斜面 70点) 総合評価: 対策が必要と判断される</p> <p>予想災害規模 現象1: 落石・崩壊 径50cm以下 規模1: 現象2: 規模2: 現象3: 規模3:</p> <p>想定対策工 工種1: 落石防護柵工 既設の嵩上げ その他1: 工種2: 落石防護柵工 ポケット式新設 その他2: 工種3: その他3:</p>	
地震時の安定性(落石・崩壊のみ):	不安定		

様式-7 安定度調査表(落石・崩壊)

[要因] (Ai)

項目	要 因	のり面			自然斜面		
		評点区分	配点	評点	評点区分	配点	評点
地形	G1: 崖錐地形 ②: 崩壊跡地 ②: 遷急線明瞭	G1に該当する	3		G2の内 複数地形該当	3	
	G3: 台地の裾部、脚部浸食、 オーバーハング 集水型斜面、 土石流跡地など	G1に該当せず	0		G2の内 1地形該当	2	
		G2.G3の内 複数地形該当	3		G2には 該当なし	0	
		G2.G3の内 1地形該当	2		G1.3の内 複数地形該当	3	
	G4: 尾根先端など凸型斜面、オーバーハング	G2.G3の内 1地形該当	2		G1.3の内 1地形該当	2	
		G2.G3には 該当なし	0	2	G1.3には 該当なし	0	4
		G4に該当する		(6)	G4に該当する		(6)
土質・地質・構造	浸食に弱い土質 水を含むと強度低下しやすい土質 その他	顕著	8		顕著	2	
		やや顕著	4	0	やや顕著	4	0
		該当せず	0	(8)	該当せず	0	(2)
	割れ目や弱層の密度が高い 浸食に弱い軟岩	顕著	12		顕著	8	
		やや顕著	6	6	やや顕著	4	4
		該当せず	0	(12)	該当せず	0	(8)
	流れ壁(層理面、弱線)	該当する	8		該当する	2	
		該当せず	0		該当せず	0	
	不透水性基盤上の土砂 上部が硬質/脚部が脆弱な岩 その他	顕著	6		顕著	4	
		やや顕著	4	0	やや顕著	3	0
		該当せず	0	(14)	該当せず	0	(6)
表層の状況	表土及び浮石・転石の状況	不安定	12		不安定	24	
		やや不安定	6		やや不安定	12	
		安定	0	0	安定	0	24
		該当する		(12)	該当する		(24)
	湧水状況	湧水あり	8		湧水あり	4	
		しみ出し程度	4	0	しみ出し程度	2	0
		なし	0	(8)	なし	0	(4)
	表面の被覆状況	裸地~植生主体	5		裸地~植生(草本)	16	
		複合(植生・構造物)	3	1	複合(裸地・草本・木本)	10	10
		構造物主体	1	(5)	木本主体	6	(16)
形状	勾配(i)、高さ	H>30m	18		H≥50m	10	
		H≤30, i>標準	15		30≤H<50m	8	
		i≤標準, 15≤H<30	10		15≤H<30m	6	8
		i≤標準, H<15	5		H<15m	4	(10)
		H≥50m	18		i≥70°	10	
		30≤H<50m	16		45°≤i<70°	10	10
		15≤H<30m	12	10	i<45°	5	(10)
		H<15m	10	(18)			
変状	当該のり面斜面の変状 (肌落ち・小落石・ ガリ浸食・洗掘・ハイゼンク孔・陥没・はらみ出し・ 根曲り・倒木・亀裂・開口亀裂 其他対策工の変状)	複数該当・明瞭なものあり	12		複数該当・明瞭なものあり	10	
		あり・不明瞭なもの	8		あり・不明瞭なもの	5	10
		なし	0	(12)	なし	0	(10)
形状	隣接するのり面・斜面等の変状 (落石・崩壊・亀裂・はらみ出し・其他の変状)	複数該当・明瞭なものあり	5		複数該当・明瞭なものあり	4	
		あり・不明瞭なもの	3	5	あり・不明瞭なもの	2	4
		なし	0	(5)	なし	0	(4)
	合計	のり面 : 24 点 (A1)			自然斜面 : 74 点 (A2)		

注) () は各項目の満点を示す。

該当する場合は配点欄に○印をつけると共に点数を記入する。

不明な場合は中間的な値を採用する。

[対策工] (Bi) = (Ai) + α または (Ai) × 0

既設対策工の効果の程度	点数(α)	評点	
想定される落石・崩壊を十分に予防している、もしくは、それが発生したとしても十分に防護し得る。	×0点	のり面	斜面
想定される落石・崩壊をかなり予防している、もしくは、それが発生した場合かなり防護しているが、万全ではない。	-20点		
想定される落石・崩壊を一部予防している、もしくは、それが発生した場合一部を防護しているが、その他の部分に対しては効果がない。	-10点		
対策がなされていない、もしくは、なされていても、効果があまり期待できない。	±0点		
合計		(B1:のり面) 0点	(B2:斜面) 64点

[履歴] (C)

* 最近の対策実施以降、落石・崩壊が当該のり面・斜面等で発生していない場合には、履歴からの評価は実施する必要なし。

→ (C)を0点とする。

被災の頻度・程度区分	配点	評点
最近の対策以降、道路交通への支障が生じたことあり。(対策工の効果なし)	100点	
交通への支障はないが路面に達する比較的大きな落石・崩壊の履歴あり。 (対策工が万全ではない)	70点	
のり面・斜面先にとどまる程度の小規模な落石・崩壊の履歴はあり。(対策工の効果はあるが、追加対策工が必要と思われるもの)	40点	
(C)	70点	

(D) = MAX(B, C)

要因からの評点 (B) = MAX(B1, B2)	64点
履歴からの評点 (C)	70点
(B)と(C)の内、大きい方 (D) = MAX(B, C)	70点

[総合評価]

対 応	判 定
対策が必要と判断される。	
防災カルテを作成し対応する。	
特に新たな対応を必要としない。	

[地震時の安定性]

安 定	
不 安 定	

* 地形でG4または浮石・転石が不安定な場合は、不安定欄に○印をつける。

[主な点検対象]

のり面	
自然斜面	

[主な災害形態]

落 石	
崩 壊	

※総合評価で示した判定がのり面部分、自然斜面のどちらに該当するかを示す。また、想定される主な災害形態が落石か崩壊かを示す。

様式-7 安定度調査表(落石・崩壊)

[要因] (Ai)

項目	要 因	のり面			自然斜面		
		評点区分	配点	評点	評点区分	配点	評点
地形	G1: 崖錐地形	G1に該当する	3		G2の内 複数地形該当	3	
	G2: 崩壊跡地	G1に該当せず	0		G2の内 1地形該当	2	
	遷線線明瞭	G2,G3の内 複数地形該当	3		G2には 該当なし	0	
		G2,G3の内 1地形該当	2		G1,3の内 複数地形該当	3	
G3: 台地の裾部、脚部浸食、 オーバーハング、集水型斜面 土石流跡地など	G2,G3の内 1地形該当	2	G1,3の内 1地形該当	2			
形状	G4: 尾根先端など凸型斜面、オーバーハング	G2,G3には 該当なし	0	G1,3には 該当なし	0	5	
		G4に該当する	(6)	G4に該当する	(6)	(6)	
土質・地質・構造	[浸食に弱い土質 水を含むと強度低下しやすい土質 その他]	顕著	8	顕著	2		
		やや顕著	4	やや顕著	1		
		該当せず	0	該当せず	0		(2)
崩壊性	[割れ目や弱層の密度が高い 浸食に弱い軟岩 風化が速い岩質、その他]	顕著	12	顕著	8		
		やや顕著	6	やや顕著	4		
		該当せず	0	該当せず	0		(8)
崩壊性	[流れ盤(層理面、弱線) 不透水性基盤上の土砂 上部が硬質/脚部が脆弱な岩 その他]	該当する	8	該当する	2		
		該当せず	0	該当せず	0		
		顕著	6	顕著	4		
表層の状況	表土及び浮石・転石の状況	不安定	12	不安定	24		
		やや不安定	6	やや不安定	12		
		安定	0	安定	0		24
表層の状況	浮石・転石が不安定～やや不安定	該当する	(12)	該当する	(24)		
		湧水状況	湧水あり	8	湧水あり		4
		しみ出し程度	4	しみ出し程度	2		2
表層の状況	表面の被覆状況	なし	0	なし	0	(4)	
		裸地～植生主体	5	裸地～植生(草本)	16		
		複合(植生・構造物)	3	複合(裸地・草本・木本)	10	6	
形状	勾配(i)、高さ	構造物主体	1	木本主体	6	(16)	
		土砂	H>30m	18	高さ	H≥50m	10
			H≤30, i>標準	15		30≤H<50m	8
岩	i≤標準, 15≤H<30	10	15≤H<30m	6	6		
	i≤標準, H<15	5	H<15m	4	(10)		
変状	当該のり面斜面の変状 (肌落・小落石 ガリ浸食・流槽・ハイピング孔・陥没・はらみ出し・ 根当り・倒木・亀裂・開口亀裂・その他対策工の変状)	H≥50m	18	勾配	i≥70°	10	
		30≤H<50m	16		45°≤i<70°	10	5
		15≤H<30m	12		i<45°	5	(10)
変状	隣接するのり面・斜面等の変状 (落石・崩壊・亀裂・はらみ出し・その他の変状)	H<15m	10		複数該当・明瞭なものあり	10	
		複数該当・明瞭なものあり	12		あり・不明瞭なもの	5	10
		あり・不明瞭なもの	8		なし	0	(10)
変状	隣接するのり面・斜面等の変状 (落石・崩壊・亀裂・はらみ出し・その他の変状)	なし	0		複数該当・明瞭なものあり	4	
		複数該当・明瞭なものあり	5		あり・不明瞭なもの	2	4
		あり・不明瞭なもの	3		なし	0	(4)
合計		のり面 : 0 点 (A1)			自然斜面 : 66 点 (A2)		

注) ()は各項目の満点を示す。

該当する場合は配点欄に○印をつけると共に点数を記入する。

不明な場合は中間的な値を採用する。

[対策工] (Bi)=(Ai)+αまたは(Ai)×0

既設対策工の効果の程度	点数(α)	評点	
想定される落石・崩壊を十分に予防している、もしくは、それが発生したとしても十分に防護し得る。	×0点	のり面	斜面
想定される落石・崩壊をかなり予防している、もしくは、それが発生した場合かなり防護しているが、万全ではない。	-20点		
想定される落石・崩壊を一部予防している、もしくは、それが発生した場合一部を防護しているが、その他の部分に対しては効果がない。	-10点		
対策がなされていない、もしくは、なされていても、効果があまり期待できない。	±0点		
合計		(B1:のり面) 点	(B2:斜面) 46 点

[履歴] (C)

* 最近の対策実施以降、落石・崩壊が当該のり面・斜面等で発生していない場合には、履歴からの評価は実施する必要なし。

→ (C)を0点とする。

被災の頻度・程度区分	配点	評点
最近の対策以降、道路交通への支障が生じたことあり。(対策工の効果なし)	100点	
交通への支障はないが路面に達する比較的大きな落石・崩壊の履歴あり。(対策工が万全ではない)	70点	
のり面・斜面先にとどまる程度の小規模な落石・崩壊の履歴はあり。(対策工の効果はあるが、追加対策工が必要と思われるもの)	40点	
(C)	40点	

(D)=MAX(B,C)

要因からの評点	(B)=MAX(B1,B2) 46 点
履歴からの評点	(C) 40 点
(B)と(C)の内、大きい方	(D)=MAX(B,C) 46 点

[総合評価]

対 応	判 定
対策が必要と判断される。	
防災カルテを作成し対応する。	
特に新たな対応を必要としない。	

[地震時の安定性]

安 定	
不 安 定	

* 地形でG4または浮石・転石が不安定な場合は、不安定欄に○印をつける。

[主な点検対象]

のり面	
自然斜面	

[主な災害形態]

落 石	
崩 壊	

※総合評価で示した判定がのり面部分、自然斜面のどちらに該当するかを示す。また、想定される主な災害形態が落石か崩壊かを示す。

様式-7 安定度調査表(落石・崩壊)

[要因] (Ai)

項目	要因	のり面			自然斜面				
		評点区分	配点	評点	評点区分	配点	評点		
地形 崩壊を伴う地形	G1: 崖錐地形	G1に該当する	3		G2の内 複数地形該当	3			
	G2: 崩壊跡地	G1に該当せず	0		G2の内 1地形該当	2			
	G3: 台地の裾部、脚部浸食、オーバーハング、集水型斜面、土石流跡地など	G2,G3の内 複数地形該当	3		G2には 該当なし	0			
	G4: 尾根先端など凸型斜面、オーバーハング	G2,G3の内 1地形該当	2		G1,3の内 複数地形該当	3			
		G2,G3には 該当なし	0	G1,3の内 1地形該当	2	0			
		G4に該当する	(6)	G4に該当する	(6)	(6)			
土質・地質・構造	崩壊質性	浸食に弱い土質	顕著	8	顕著	2	0		
		水を含むと強度低下しやすい土質	やや顕著	4	やや顕著	1			
		その他	該当せず	0	該当せず	0		(8)	
崩壊質性	崩壊質性	割れ目や弱層の密度が高い	顕著	12	顕著	8	4		
		浸食に弱い軟岩	やや顕著	6	やや顕著	4			
		風化が速い岩質、その他	該当せず	0	該当せず	0		(12)	
崩壊構造	崩壊構造	流れ盤(層理面、弱線)	該当する	8	該当する	2	3		
		不透水性基盤上の土砂	該当せず	0	該当せず	0			
		上部が硬質/脚部が脆弱な岩	顕著	6	顕著	4			
		その他	やや顕著	4	やや顕著	3	(6)		
			該当せず	0	該当せず	0	(14)		
表層の状況	表層の状況	表土及び浮石・転石の状況	不安定	12	不安定	24	0		
			やや不安定	6	やや不安定	12			
			安定	0	安定	0			
		浮石・転石が不安定～やや不安定	該当する	(12)	該当する	(24)			
湧水状況	湧水状況	湧水状況	湧水あり	8	湧水あり	4	0		
			しみ出し程度	4	しみ出し程度	2			
			なし	0	なし	0		(8)	
			なし	0	なし	0		(4)	
表面の被覆状況	表面の被覆状況	表面の被覆状況	裸地～植生主体	5	裸地～植生(草本)	16	6		
			複合(植生・構造物)	3	複合(裸地・草本・木本)	10			
			構造物主体	1	木本主体	6		(16)	
			1	(5)					
形状	形状	勾配(i)、高さ	H>30m	18	H≥50m	10	8		
			H≤30, i>標準	15	30≤H<50m	8			
			i≤標準, 15≤H<30	10	15≤H<30m	6		8	
			i≤標準, H<15	5	H<15m	4		(10)	
			H≥50m	18	i≥70°	10		5	
			30≤H<50m	16	45°≤i<70°	10			
			15≤H<30m	12	i<45°	5			(10)
			H<15m	10					
			10	(18)					
変状	変状	当該のり面斜面の変状 (肌落ち・小落石・ガリ浸食・洗掘・ハインク孔・陥没・はらみ出し・根曲り・倒木・亀裂・開口亀裂・その他対策工の変状)	複数該当・明瞭なものあり	12	複数該当・明瞭なものあり	10	0		
			あり・不明瞭なもの	8	あり・不明瞭なもの	5			
			なし	0	なし	0		(10)	
			なし	0	なし	0		(10)	
隣接するのり面・斜面等の変状 (落石・崩壊・亀裂・はらみ出し・その他の変状)	隣接するのり面・斜面等の変状	隣接するのり面・斜面等の変状	複数該当・明瞭なものあり	5	複数該当・明瞭なものあり	4	4		
			あり・不明瞭なもの	3	あり・不明瞭なもの	2			
			なし	0	なし	0		(4)	
			なし	0	なし	0		(4)	
合計		のり面	0	点 (A1)	自然斜面	30	点 (A2)		

注) () は各項目の満点を示す。

該当する場合は配点欄に○印をつけると共に点数を記入する。

不明な場合は中間的な値を採用する。

[対策工] (Bi) = (Ai) + α または (Ai) × 0

既設対策工の効果の程度	点数(α)	評点	
想定される落石・崩壊を十分に予防している、もしくは、それが発生したとしても十分に防護し得る。	×0点	のり面	斜面
想定される落石・崩壊をかなり予防している、もしくは、それが発生した場合かなり防護しているが、万全ではない。	-20点		
想定される落石・崩壊を一部予防している、もしくは、それが発生した場合一部を防護しているが、その他の部分に対しては効果がない。	-10点		
対策がなされていない、もしくは、なされていても、効果があまり期待できない。	±0点		
合計		(B1:のり面) 点	(B2:斜面) 20 点

[履歴] (C)

* 最近の対策実施以降、落石・崩壊が当該のり面・斜面等で発生していない場合には、履歴からの評価は実施する必要なし。

→ (C) を0点とする。

被災の頻度・程度区分	配点	評点
最近の対策以降、道路交通への支障が生じたことあり。(対策工の効果なし)	100点	
交通への支障はないが路面に達する比較的大きな落石・崩壊の履歴あり。(対策工が万全ではない)	70点	
のり面・斜面先にとどまる程度の小規模な落石・崩壊の履歴はあり。(対策工の効果はあるが、追加対策工が必要と思われるもの)	40点	
(C)	0	

(D) = MAX(B, C)

要因からの評点	(B) = MAX(B1, B2) 20 点
履歴からの評点	(C) 0 点
(B) と (C) の内、大きい方	(D) = MAX(B, C) 20 点

[総合評価]

対応	判定
対策が必要と判断される。	
防災カルテを作成し対応する。	
特に新たな対応を必要としない。	

[地震時の安定性]

安定	
不安定	

* 地形でG4または浮石・転石が不安定な場合は、不安定欄に○印をつける。

[主な点検対象]

のり面	
自然斜面	

[主な災害形態]

落石	
崩壊	

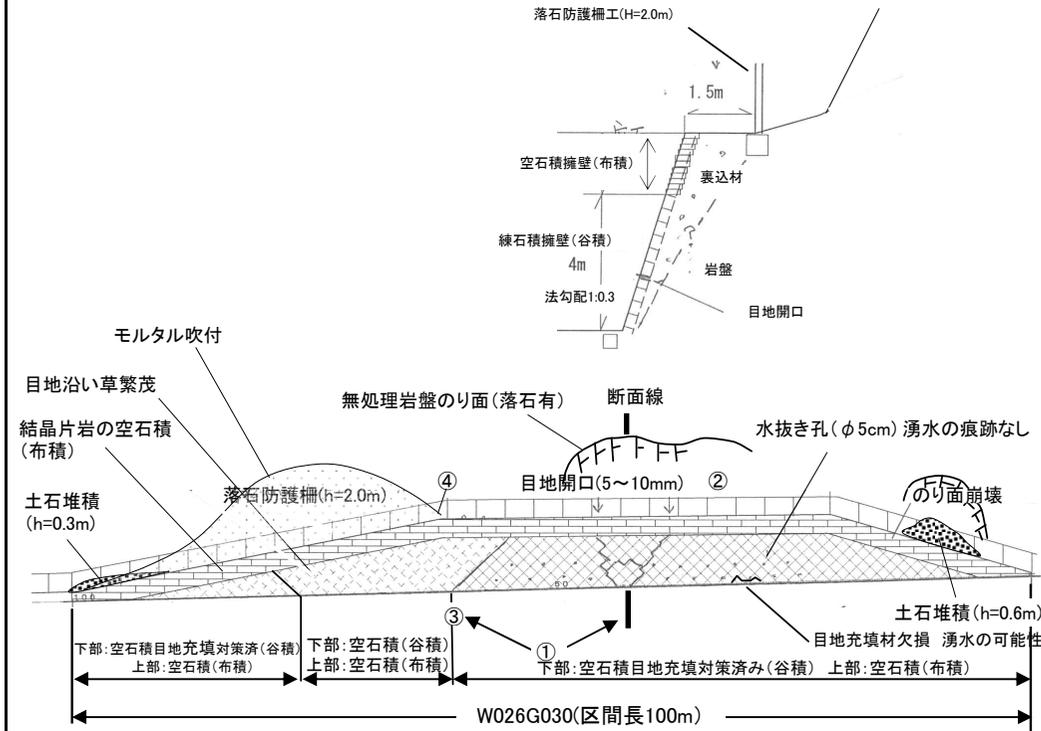
* 総合評価で示した判定がのり面部分、自然斜面のどちらに該当するかを示す。また、想定される主な災害形態が落石か崩壊かを示す。

様式-3 箇所別記録表(擁壁)

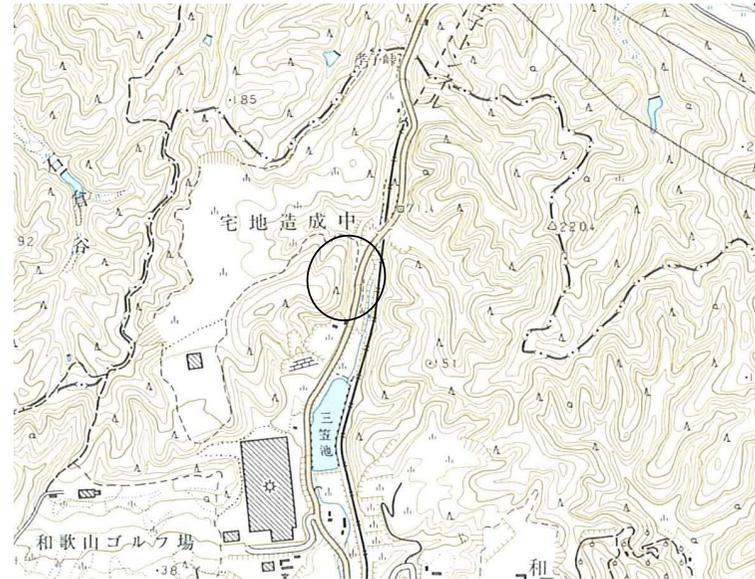
管理機関名	近畿地方整備局		
管理機関コード	和歌山河川国道事務所		

施設管理番号	W026G030	点検対象項目	擁壁	路線名	一般国道26号			距離標(自)	627	(至)	30	上下線の別	上	延長	100.000 m				
事業区分	一般	道路種別	一般国道(指定区間)	現道・旧道路区分	現道	所在地	和歌山県 和歌山市 中宇佐谷	位置目印	62.8kmキロ標		北緯	34度16分36.0秒	東経	135度8分45.0秒	測地系	世界測地系			
事前通行規制区間指定	有(通行)	規制基準等	連続雨量	250 mm	時間雨量	mm	交通量	平日	12,400 台/12h	休日	10,300 台/12h	DID区間	非該当	バス路線	該当	迂回路	無	緊急輸送道路区分	指定有

スケッチ・現況写真(既設対策工、位置目印との位置関係が分かるもの)



位置図(縮尺1/25,000)



特記事項	
点検実施	H 年 月 日 天候: ()
調査方法	目視点検 地表踏査
所見(評価理由)	最大高さ6mの空石積擁壁。下部が谷積、上部が布積の複合擁壁であり、さらに下部の谷積は起点側、終点側が目地充填対策が施工されている。擁壁天端は1.5m~3.0mの平場となり岩盤の露出したのり面と接している。起点側より40m付近の目地充填された下部石積に縦方向に2条の目地開きが発生しており、この間には水平目地にも開きが見られる。開口の原因は、擁壁高が最も高くかつ、変状箇所が擁壁折れ点(凸部)に当たることから形状的緩みややすいことに起因していると推定される。また、加えて上部布積の嵩上げによる土圧の増大が原因している可能性がある。 この変状は、H8点検以降カルテ点検において顕著な進行は確認されていない。また、このほかには自立した変状はなく擁壁は全体的には安定していると判断されるが擁壁構造が空石積の複合構造と特殊な構造であり、一部に変状も認められることから今後もカルテ点検を継続することが望ましい。

被災履歴	無 () (H8年度以降)
重複点検対象項目	対応施設管理番号: W026A041
調査方法	有 落石・崩壊
平成8年度点検結果	評点 () 総合評価: /対応: ()
平成18年度点検結果	評点 (60点) 総合評価: 防災カルテを作成し対応する
予想災害規模	現象1: 擁壁の破損 変状箇所の崩壊 規模1: 10m間(高さ6m)
	現象2: 規模2:
	現象3: 規模3:
想定対策工	工種1: その他1:
	工種2: その他2:
	工種3: その他3:

様式-13 安定度調査表(擁壁)

[擁壁周辺条件要因](A)

項目	要因	評点区分	配点	評点
地形	地すべり	地すべり地形ではない	<input checked="" type="radio"/> 0	0 (30)
		地すべり地形だが適切な対策を講じている	<input checked="" type="radio"/> 5	
		地すべり地形だが対策がない、あるいは不明	<input checked="" type="radio"/> 30	
基礎地盤	軟弱地盤	軟弱な地盤ではない	<input checked="" type="radio"/> 0	0 (20)
		軟弱な地盤だが適切な対策を講じている	<input checked="" type="radio"/> 5	
		軟弱な地盤だが対策がない、あるいは不明	<input checked="" type="radio"/> 20	
	基礎底面	良好な地盤に着床している	<input checked="" type="radio"/> 0	0 (10)
		擁壁前面の基礎地盤の平場が狭い	<input checked="" type="radio"/> 5	
		崖錐地帯にある 基礎地盤が30°以上傾斜している	<input checked="" type="radio"/> 10	
	支持力	平板載荷試験により支持力を確認している	<input checked="" type="radio"/> 0	5 (5)
		N値から支持力を推定している	<input checked="" type="radio"/> 2	
		支持力の確認を行っていない	<input checked="" type="radio"/> 5	
水	地下水	付近に湧水は認められない	<input checked="" type="radio"/> 0	0 (10)
		付近に湧水がある	<input checked="" type="radio"/> 10	
		基礎地盤の地下水が底面付近にある	<input checked="" type="radio"/> 10	
	排水施設	周辺に有効な排水施設があり、雨水等が流入しない	<input checked="" type="radio"/> 0	25 (25)
		周辺の排水施設が機能を発揮していない	<input checked="" type="radio"/> 20	
		排水施設が設置されておらず、雨水が自然流入する	<input checked="" type="radio"/> 25	
立地	洗掘	前面に河川がない	<input checked="" type="radio"/> 0	0 (20)
		洗掘防止工が無いが、基礎は常時水位より高い	<input checked="" type="radio"/> 5	
		擁壁前面に有効な洗掘防止工が講じられている	<input checked="" type="radio"/> 5	
		洗掘防止工がない	<input checked="" type="radio"/> 10	
		擁壁前面の洗掘防止工の効果がない	<input checked="" type="radio"/> 20	
合計 但し50点を上限とする			(A)	30 点

[擁壁本体要因](B)

項目	要因	評点区分	配点	評点
擁壁形式	石積混合擁壁	安定した地山や切土ののり面保護として用いている	<input checked="" type="radio"/> 5	20 (20)
		良好な裏込めが施されている	<input checked="" type="radio"/> 5	
		上記以外	<input checked="" type="radio"/> 10	
		空積	<input checked="" type="radio"/> 20	
	無筋等	点検要領参照	<input type="checkbox"/>	5
片持梁式	点検要領参照	<input type="checkbox"/>	0	
合計 但し20点を上限とする			(B)	20 点

[履歴](C)

項目	要因	評点区分	配点	評点
壁体の変状	変状有	変状なし	<input checked="" type="radio"/> 0	10 (50)
		2年以上変状が進行していないことを確認 対策工実施後変状の進行なし(2年未満)	<input checked="" type="radio"/> 10	
		未対策だが変状の進行なし(2年未満)	<input checked="" type="radio"/> 20	
		変状の停止が確認されず(含む、資料無し)	<input checked="" type="radio"/> 50	
		合計 但し50点を上限とする	(C)	

(D)=(A)+(B)+(C)

擁壁周辺条件要因 による評点	(A)	30 点
擁壁本体要因 による評点	(B)	20 点
履歴からの評点	(C)	10 点
合計評点	(D)	60 点

[総合評価]

対応	判定
対策が必要と判断される。	<input type="checkbox"/>
防災カルテを作成し対応する。	<input checked="" type="checkbox"/>
特に新たな対応を必要としない。	<input type="checkbox"/>

注) ()は各項目の満点を示す。

該当する場合は配点欄に○印をつけると共に点数を記入する。

不明な場合は中間的な値を採用する。